

笛吹市南部の発展について

(特に一ノ宮町、御坂町、八代町の果樹園景観を中心として)

南林 和

昨年(2007年)5月、2年半後に迫った定年後の第2の人生に果樹栽培でもやってみようかと思いついて浅間園須田さんを訪ねました。高校生の頃から山登りの行き帰りに通る甲府盆地の景観には惹かれるものを感じていました。特に新宿から甲府へ向かう中央線が笹子、初鹿野を過ぎてトンネルを抜け、勝沼駅にスイッチバックして停車する時間、また、山を下りて小淵沢から甲斐駒、鳳凰三山の岬々たる景色を眺めながら甲府、塩山を過ぎ、勝沼駅を過ぎる時間、目の前に緩やかに傾斜したブドウ畑が広がり、その先に南アルプスが聳える景観を眺めながら心が浮き立つ時間が有ったことを今改めて思い起こしています。

勝沼周辺は時代を経て、ややブドウ畑が減り、マンションなどが目立つようになったと感じますが、浅間園を訪ね、勝沼から中央高速をくぐり笛吹市一ノ宮町に入ると、幼き頃の記憶にある田園風景が残っていました。

いつか、こんなところで暮らせたらいいだろうなという淡い憧憬を抱き続けてきたことを思い起こしながら、今、果樹栽培の計画を建てるにあたり、笛吹市の中で自分をどのように位置づけ、この先約20年をどのように過ごすかを考えてみたいと思います。

■笛吹市南部の特長(秀でているところ)

笛吹市南部の良さは何といたっても果樹園を中心とする田園風景だと思います。特に一ノ宮町、御坂町、八代町の中央高速道南側の地域は御坂山地の北側山麓に位置し、緩やかな斜面には葡萄と桃の畑が一面に広がり、その先に奥秩父の山々、左手に南アルプスの山々を望む景観は日本国内のみならず、世界中を探しても、第一級の景観だと思います。特に、桃の花が咲き誇る4月、ピンクの絨毯の上にアルプスの白い峰々が聳える景色は圧巻です。太陽を背にした緩い北斜面ならばこそその透明感は正に山梨の宝と言えるのではないのでしょうか。



更に、笛吹市南部の特長としては荒らされていないということだと思います。山梨は山、湖、史跡、温泉など観光資源がたくさんあり、かつ首都東京からも近いという恵まれた地域ですが、その中でも笛吹市南部は特異な存在と言えるかもしれません。周辺の地域は良くも悪くも観光地として私たちに馴染みがあるところが多いにもかかわらず、笛吹市南部は一般には殆ど知られる

こと無くひっそりと眠っているかのようです。多分電車にしる車にしる東京方面から来て甲府盆地に入るとすぐに石和温泉や甲府に目が行って左手の果樹園群を見落としてしまうのではないかと思います。その「荒らされていない」という点、田園風景以外殆ど目に付くものが無いという点が現代においてはこのうえなく貴重なものだという思いを強くします。

■ 笛吹市南部の発展のカギ（これからの笛吹市南部はどんな姿がふさわしいのか？）

それでは、これからの笛吹市南部はどのような町になることが望ましいのでしょうか？

地域のことはそこに暮らす人々がどうしたいかということが大切です。勝手な想像ですが、笛吹市南部に住んでいる方々は多分、ここの田園風景、桃と葡萄畑と山々の景観に誇りを持っていると同時にもっと便利で住み易い地域になることを望んでいるのではないかと思います。ちょっとはずれのあまり便利でない環境だったが故に現在の景観が残っていると言えますが、これから高齢化が進行し、若い働き手が外へ出て行ってしまうことになると生活が立ち行かなくなるという不安もあるのではないのでしょうか。

地元の人が思っている以上に都会で生活している人にとっては笛吹市南部の田園風景は素晴らしいものに見えます。地元の方々は桃、葡萄が実るシーズンは素晴らしいが、それ以外は人も来ないということで、シーズンオフは何の魅力も無いと考えるのではないのでしょうか。都会の喧騒に疲れた人たちにとっては果実が実っていなくてもここの風景の中にいるだけで大変な贅沢な気持ちになります。

発展のかぎの一つは観光であることは間違いありません。その観光のイメージは観光バスやマイカーを沢山入れるために広い道路を作ったり、大きなホテルを作るということではなく、ゆっくりと滞在して田園の中を散策し、農家の人と言葉を交わす、時間があれば農業体験もする、そんなイメージです。

便利になってほしいが、田園の景観も残ってほしいという相反するようなことが実現できれば大変素晴らしいことだと思います。

- A. 桃、葡萄果樹園を中心とする景観を守る
- B. 便利で住み易い環境を作る

ことができれば笛吹市南部は安泰だと考えます。多分、生き残る道は両方をいかにバランスよく実現するかだと思います。冷静に考えてみれば、どちらか一方が失われてしまえば、もう一方も存続できなくなるのではないかと思います。例えば、田園景観が失われてしまえば不便なだけの地域として取り残されてしまいそうです。不便で住み易くなくなれば人が離れ、田園景観も荒れてしまうでしょう。

すでに、今までも同じ考えの下に色々な取り組みはされてきたと思いますが、中々簡単に事が進むと言うわけにはいかないと思われます。少子高齢化、経済のグローバル化等、農村が自立して発展していくことが困難な時代である今こそ、地域の人たちが長期的なビジョンを共有して問題に取り組んでいくことが必要だと思います。

■桃、葡萄果樹園を中心とする景観を守るには何が必要か？（不足しているものは？）

桃、葡萄果樹園を中心とする景観を守るためには何が必要でしょうか？

まず、現状のままで大丈夫か？ということについては漠然とした危機感があると言えるのではないのでしょうか。実際に平成7年から平成17年の10年間で笛吹市の農家人口は23,535人から18,340人に減少しています(22%減)。樹園地(果樹、茶、桑、他)の面積は同3,130haから2,684haに減少(14%減)しています。

では景観を守ることが困難になる原因を考えてみたいと思います。

景観が守れないと言うことは果樹栽培農業が今までのようにきちんとできなくなるということです。果樹栽培農業ができなくなる原因としては

A-1. 少子高齢化の進展により農業従事者が減る

A-2. グローバル経済化による相対的な収入低下により農業従事者が減る

A-3. より安定した収入の職業に移っていくため農業従事者が減る

A-4. 上記理由などにより農地が別の用途に転換されてしまう

(相続などの際に売却、宅地、工場などになる)

が考えられます。

果樹栽培農業ができなくなる原因を取り除くためには以下のような施策が考えられると思います。

A-1. 農業従事者を増やす(減らさない)

- ①少子高齢化時代なので外からの移住者を増やす
- ②移住者を増やすための魅力ある政策、環境づくり
 - 専業にこだわらず、働きやすい環境づくり

A-2. 農業の収入を増やす

- ③生産性を上げる
 - 収量を増やす(これは難しい?)
 - ロスを減らす(痛んだ桃の活用)
 - 手間を減らす(機械化、作業の改善)
 - 栽培方法の改良(新短梢栽培等)
- ④生産物の付加価値を上げる(高く売れる)
 - 加工食品(ワイン、?)
 - 生鮮品のブランド化
 - 販路開拓
- ⑤農業関連の売れるものを作る
 - 農業体験
 - 出資等の参加者を増やす
 - 観光とセット

A-3. 農業生産の安定化(収入の安定化)

- ⑥経営形態の改善(会社組織、適正な規模の追及)
- ⑦農閑期の新たな収入源
 - 観光(風景・リゾート、会議・セミナー・合宿、滞在型農業体験)
 - 加工品販売
 - 農閑期に収穫できる作物の開発(景観を阻害しない品種)

A-4. 土地転用の規制、安く売らないなどの農地を守る制度

- ⑧土地転用の用途を規制する(転用は税金を多くする)
- ⑨転用する用途のデザインを景観にマッチしたものに規制する
 - 建物の外観、高さ、色、外構
 - 道路境界、道路、歩道のデザインも併せてルール化

■便利で住みやすい環境とはどんなものか

では、便利で住みやすい環境とはどんなものでしょうか？

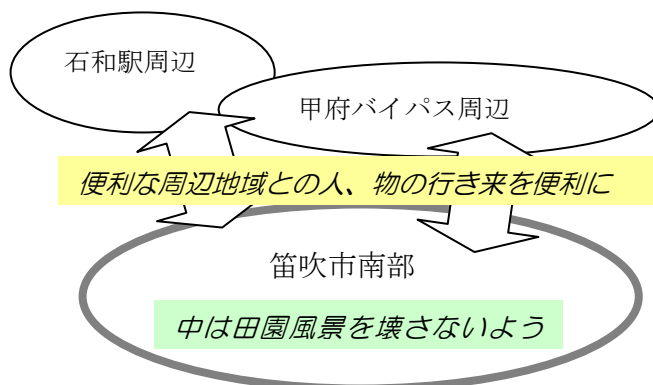
笛吹市全体の人口を見てみると、平成7年から17年までの10年間では66,839人から71,711人と増加（7.3%増）しています。笛吹市は全体的には住みやすい環境があり、外から人が流入してきていると考えられます。地理的には甲府へ勤める人のベッドタウンとして石和駅周辺、甲府バイパス周辺の人口が増えていると推測できます。魅力ある住環境としてのインフラ整備は進んでいると思われませんが、その分、石和駅、甲府バイパス周辺の農地は住宅地等に置き換わっていることが窺えます。農地が住宅地等に置き換わっていくことは中央高速以北の地域においてはやむをえないと思いますが、先に書いたように南部の田園地帯については便利で住みやすい環境を作るために同様のインフラ整備を進めることが必ずしも適切ではないと考えます。

笛吹市南部地域にふさわしい便利で住みやすい住環境と言うものを改めて考えてみる必要があると思います。

笛吹市南部は人里はなれた山奥ではなく、近くには便利なインフラが整備されていますので田園風景を大切にしながら便利さを追求することは可能だと思います。便利な生活環境として特に考慮すべきものとしては

B-1. 周辺地域との物流、商流、人の流れを便利にするインフラ

B-2. 田園風景を壊さないために安易な便利さを田園風景の中に持ち込まない仕組みが考えられると思います。



B-1. 周辺地域との物流、商流、人の流れを便利にするインフラ

⑩入り口（周辺との接点）に人・物の集積拠点を作る

- ・お店、駐車場、ホテル、レストラン
- ・集会・保養施設、娯楽施設
- ・文化施設（ホール、会議場、美術館、図書館）

B-2. 田園風景を壊さないために安易な便利さを田園風景の中に持ち込まない仕組み

⑪中の移動は既存道路インフラで間に合う交通手段に規制

- ・マイカー、観光バス乗り入れ規制（入り口の駐車場で乗り換え）
- ・遊覧バス、電動カートなどの小規模公共交通、（電動）自転車

⑫新しい施設建設に際しての統一的设计ガイド

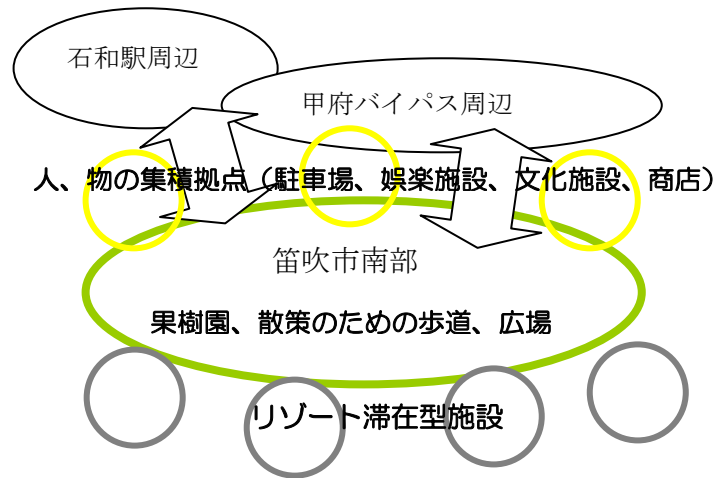
- ・建物の形態、高さ、色、看板の制限
- ・外構、樹木等の指定
- ・歩道設置の義務化
- ・上下水、電気、ガスインフラ設置基準（地下埋設）

⑬化石燃料に頼らない環境共生型の生活スタイル

- ・太陽光発電、給湯、廃棄物リサイクル（肥料、燃料）、省エネ住宅

■果樹栽培農業と観光がマッチした新しい笛吹市南部のあり方

果樹栽培農業と観光がマッチした笛吹市南部のあり方を以下に模式的に書いてみました。



人、物の集積拠点（駐車場、娯楽施設、文化施設、商店）

- ・バス、マイカーの駐車場をエリアの外に作る
- ・ワイナリー
- ・住民も使う兼用施設（図書館、ホール、運動場）
- ・農業研修施設、PR拠点
- ・農産物販売センター
- ・イベント（桃の花の季節、果実の季節）
 - －写生、俳句、コンサート、クロスカンントリー、マラソン、葡萄狩り、桃狩り
 - －国際会議、ハイキング、トレッキング、登山

果樹園、散策のための歩道、広場

- ・大型バス、マイカー規制
 - －既存のインフラでまかなえる交通方法
- ・遊覧バス、自転車、徒歩
- ・遊歩道整備
- ・貸し農園

リゾート滞在型施設

- ・長期滞在型宿舎（リゾートホテル、自炊型コテージ、民宿）
- ・会議、合宿施設、運動場、ホール
- ・温泉

今までこの素晴らしい田園風景を作り上げ、守ってきた地域の方々に尊敬と感謝の気持ちを捧げつつ、自分もそれを継承し、新しい時代を作る一端を担えればと思っています。

（次は果樹栽培農業の生産性向上、収益拡大、安定化のための方法について考えてみたいと思います。）